

2018年(平成30年)9月19日(水曜日)	第1000号	1000号	1000号
1000号	1000号	1000号	1000号
1000号	1000号	1000号	1000号
1000号	1000号	1000号	1000号

2018年(平成30年)9月19日(水曜日)

日本農業新聞

協同は自立・自治の思
いがあったからこそ成り立
ち、共生は協同によって
生み出される。そしてこ
の自立・自治は、地域へ
の愛着と無私の精神があ
ってこそ可能であること
を、いたく感じさせられ
た。

まよひつゝ 歩み

著『無私の日本人』であ
る。磯田道史はあの『武
士の家計簿』の著者でも
あり、「古文書を一日中
読んでいるときが一番幸
せ」という「古文書おた
く」としても知られる。
早速購入して読んでみ
た。江戸時代前期、仙台
近くにある吉岡宿での物
語だ。伊達藩は主立った
家来衆を仙台城下には常

農的社會デザイン研究所代表・蔦谷栄一氏

共生・協同の 成立条件

地域愛と無私の精神

住させず、領地に分散し
て城館を造らせ、そこを
「所拝領」の地として家
来衆に与え、「地方知
民に配ることによって、
町の衰退を食い止めるの
に成功する。」
1000両をつくるま
での苦労、そしてこうし
た仕組みを藩に認めさせ
るまでの困難には非常な
るものがあつたが、男た
ちの決死の覚悟が人の心
を動かし、ついには実現
に至る。この後、彼ら
は、子孫たちにこの偉業
を人前で語ることを戒
め、子孫たちは本当にそ
うしたという。

宿場は、藩が公用で街
道を往来する際に人馬を
強制的に徴発させられ
る。この負担が宿場にと
ってはなかなか過重で
あつたことから、伊達家
も助成制度を設けて宿場
町に金を配って負担の軽
減を図っていた。

ところが、この吉岡宿
は藩の直轄地ではなく但
木家の領地であるとし
て、助成の対象とはされ
なかつた。このため吉岡
宿は疲弊する一方であつ
た。

そこで「このままでは
(吉岡宿は)滅ぶと絶
望」した穀田屋十三郎を
はじめとする9人の男た
ちが、窮地を救うために
立ち上がる。駆け回って
理解者を獲得し、節約を
徹底するばかりか家産を
なげうって1000両の
基金を確保する。これを
藩に貸してその利子を住
民に配ることによって、

(今回は26日付)